

【エクアドル経済:2014年1月】

1. 消費者物価指数(速報値)の発表

国家統計調査局(INEC)は、2013年12月の消費者物価指数変動率(速報値)を0.20%と発表した。これにより、2013年の消費者物価指数年間変動率(速報値)は、2.70%となり、2005年以降最も低い数値となった。

2. 2013年の税収

7日、カラスコ国税庁(SRI)長官は、2013年の税収が、昨年より13%増加し、127億5,800万米ドルに達する見通しである旨発表した。

3. 2013年の関税収入

13日、エクアドル税関(SENAE)は、2013年の関税収入が、昨年より4.5%増加し、36億800万米ドルに達する見通しである旨発表した。

4. EUとの通商協定交渉

(1)13日から17日まで、ブリュッセルにてエクアドル・EU通商協定第1回再開交渉が行われた。エクアドルからは、リバデネイラ貿易大臣、ラミレス国家高等教育科学革新庁長官及び交渉チームが出席し、農産品、政府調達、知的所有権、原産地証明など幅広い分野が話し合われた。第2回再開交渉は、エクアドルにて行われる予定。

(2)EUとの通商協定交渉は、当初はアンデス共同体とEUの間で交渉が行われていたが、2008年にボリビアが離脱したことで個別交渉となったが、エクアドル産バナナの関税を巡り交渉が難航し、2009年7月エクアドル政府側から交渉を凍結していた。

(3)2013年4月に訪独したコレア大統領は、メルケル独首相との会談の際に交渉再開へ意欲を見せていたものである。